

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒 元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

ハヤチネウスユキソウ



ハヤチネウスユキソウ

6月末、岩手県・早池峰山（1917m）に、ハヤチネウスユキソウに会いに出かけた。ミヤマウスユキソウ、シロウマウスユキソウ、エゾウスユキソウなど、ウスユキソウと呼ばれる高山植物はわが国にいろいろあるが、このハヤチネウスユキソウこそ、「アルプスの星」といわれるヨーロッパ・アルプスの花、エーデルワイスに最も近い花と言われる。

かつてヨーロッパ・アルプスでエーデルワイスの群生の中に寝そべって憩いのひと時を過ごしたことがある私としては、恋人にでも会いに行く思いでイソイソと夜行列車に乗りこんだものである。同行してくれたのは、早池峰神楽とハヤチネウスユキソウにほれ込んで長年、早池峰山に通いつめているというI君である。

石鳥谷駅から、地元のM氏の車で登山口まで送ってもらったが、山に近づくにあいにくの雨となった。早池峰山への登山コースは、岳集落からの縦走コースと、河原坊コース、小田越コースの3本があるが、雨の中の登山でもあり、最短経路の河原坊からの登山コースを選んだ。

コメガモリ沢の沢の中の登りを約1時間半、左に右に沢を渡り返しながら登る。最後の水場・頭垢離を過ぎると沢を離れ、岩石とハイマツ帯の尾根伝いの急な登りになる。岩の合間に

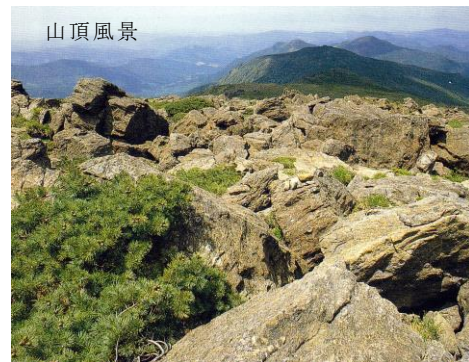


コメガモリ沢の登路

ガンコウランの赤い花が見える。頂上稜線近くになって、やっとお目当てのハヤチネウス

ユキソウが現われた。巨岩の根元のつつましやかな群生である。こんもりした頭花の下部にリンと星型に張り出した真っ白で肉厚の包葉、正しく日本のエーデルワイスである。感激の出会いだった。

それから頂上までは、岩伝いのあちこちでハヤチネウスユキソウを愛でながらの登はんとな



山頂風景

った。登山口から頂上まで約3時間半。雨の中で、頂上からの展望はあきらめ

たが、あこがれの花にめぐり合えての満足の一日だった。

山頂の避難小屋での昼食会はやはり、オラが山・早池峰の花談義で大賑わいだった。



麓から仰ぐ早池峰山